

「縮む諏訪を元気にするには」グランドデザイン素描

26.2.11 (24. 5. 9) 矢島義恭

1-1 人口減少超高齢化社会の到来

- 人口減少が進む
 - ・2010年の諏訪圏域人口は204,875人、ピークより7,500人減少
 - ・2020年の推計人口は2001年のピークより21,347人、10%の減少
 - ・2030年の推計人口はピークより38,654人、18%の減少
- 超高齢化社会の到来
 - ・高齢者人口の増加と要介護者の激増が続く
 - ・生産年齢人口の激減が続く
 - ・年少人口の激減(少子化)

1-2 人口減少超高齢化社会の課題

〔人口減少社会リポート No.5〕を参照

2-1 人口減少の原因

超高齢化で死亡数が多くなり自然減少を止めることは極めて困難

- ・死亡数の増加 平均寿命がのびて高齢者層が厚くなったが限りがあるため
- ・出生数の減少
 - ① 出生率の低下(未婚化、晩婚化、晩産化) 2.07より低いと減少
 - ② 少子化により出産期女性数の減少
- ・移動① 地域で育てた子ども世代が都市へ流出 2010年は16.3%減少(学卒後の若者)
 - ② 他地域との間の移住(転入より転出が大きいと減少) 田舎暮らし移住など
 - ③ 諏訪地域内での子育て期世帯の住宅取得などによる移動(市町村間の増減)

2-2 転入者の増加による社会増加は可能か メモ

- 新規産業を育成して雇用拡大を図ることが可能か・地域循環地場産業・シルバー産業
- 製造業での中小企業の育成 ものづくりの魅力ある環境を育てられるか
- 観光業の振興による雇用力増加の展望は
- 暮らやすく住みやすい街づくりによる、若者や子育て世代のU・Iターンの展望
- 田舎暮らし推奨による都会の中老年者の移住受け入れの展望は

3 諏訪の地域的な課題の鳥瞰 メモ

住みよく快適に 安心して暮らせる地域づくり

産業基盤の整備と育成〔雇用の確保・経済の活性化〕

製造業や観光業の振興

これまでの蓄積と集積を活かし

中小製造業の育成・誘致

ものづくりの伝統と集積
の集積、街路・歩道の整備

高品質、いやし、高消費

観光地の成熟化推進 旅を楽しめ満足感

自然・文化的観光資源豊富
イベント、知名度、集客力
ホテル・旅館の集積
特急駅に隣接する観光地
上質有料の観光施設の創設

新たに

<成長が期待できる産業>

健康と老後の安心

医療と福祉分野の育成 長寿の里(長い健康寿命) シルバー地場産業

福祉大学校・看護専門学校
温泉、東バル跡地、住民の健康
諏訪赤十字病院、介護入所施設
ホテル・旅館、保養施設

松本と比較して

- ・高等教育関係の人口が少ない
- ・オフィス関係人口が少ない
- ・高級品小売業経営の困難さ
- ・物流の拠点として立地の困難さ
- ・大工場立地の土地の取得困難

商業地域振興

歩いて暮らせる街、個性的な店

駅周辺市街地の再生

おしゃれで楽しめる憩いの場
市民の活動や交流の場

サービス業(医療・金融・飲食)

住民のニーズをとらえたビジネス
自家用車客中心

新興商業地の整備

日常生活用品購入で集客
専門店も多い商業センターに

店舗面積が広くとれる
大型店・専門店の集積
品揃え豊富で安価な商品
圏域の中核商業地域に

[具体策 メモ]

A 医療系や健康・いやしの集積 メモ

- ・医療・福祉関係の教育や研究機関
 - ◇ 看護学校の整備
 - ◇ 県立福祉大学校の大胆な拡充策 県立短大などに
- ・保育中心から介護系人材の育成へ (現) 保育科 50人、介護福祉科 20人
 - ◇ 医療系の短大
 - ◇ 理学療法士学校 (公立・私立)
 - ◇ リハビリが充実した病院 (温泉リハビリ病院) 中南信のリハビリセンターに
- ・診療網の整備 (拠点病院、地域病院、診療所)
- ・介護サービスや施設の整備 在宅支援サービスの開拓
- ・成人病の予防と改善 ☆ 長野県の平均寿命 男性は全国1位 女性も全国1位
 - ☆ 諏訪市の平均寿命 男性は全国10位
- ★ 諏訪圏域の要介護認定者の高齢者中の出現率が非常に低い 健康寿命が長い
(平成22年) 諏訪圏域 14.9%、全国 16.8%、長野県は全国並、松本市 18.8%(?)

B 滞在型観光の可能性 ゆったり楽しみながら健康チェックと健康増進

- 接客上手な温泉ホテル (都市高齢者の湯湯治場) おもてなし
- 身体障害者や超高齢者が利用できるバリアフリー化とアピール
- おいしい健康料理や食の改善学習 カリ、塩分、カルシウム、蛋白の調整
- 医療機関との連携 (人間ドック、脳ドック)
- ユニークな温泉場(浴場)の点在
- 運動 (すわっこランド、湖畔ウォーキング、湖畔ジョギング、トレッキング)
- 森林セラピー 住民の参加
- 楽しめる諏訪の四季と文化
- 周辺観光地の漫遊(あきない、楽しめる) 観光エリアを諏訪圏域、更には中南信に広げる

観光の情報提供 パンフレット、ネット

おいしいそば店探訪などのおすすめ情報 (例)

観光客ニーズの視点からの情報提供 (パンフレット、ネット)

滞在客の一日の過ごし方、スケジュールの例、おいしい食のスポット

初来諏客、リピーター、高齢夫婦、女性グループ、滞在客、日帰り客、団体客

C シルバー地場産業の可能性メモ

余暇を楽しむ、老人力の地域循環

- 街あるきを楽しめるまちづくり 周辺の人々、かりんちゃんバス利用、無料駐車場
- 街中に高齢者の拠り所
 - ◇ 土足で入れる「みんなの家」 常設(週2位)の産直市場、屋台広場、軽自動車屋台
 - ◇ 老大活動、公民館活動、駅前みんなの広場、老人クラブ活動、
 - ◇ カフェ、軽食堂、レストラン、
- 店舗情報のPR 「おはよう」のすわプラザ情報、婦人服店多数 (ショッピングが楽しめる)
- 高齢者向け良質なサービスの開拓 便利屋サービス、シルバー支援コンサル・プランナー
- 地産市場 軽トラ市、朝市、昼市、土曜日、 一次製品の活用
- 諏訪の四季と文化を楽しむ小ツアー (年間スケジュール) 地域住民対象、はとバスの発想
- 小規模な個人経営、NPO

「上諏訪市街地の再生にむけて」

検討提言メモ

24.12.5 矢島義恭

上諏訪市街地の人口推計値			
	人口(人)	減少(人)	減少率
1965年	26,826		
2012年	10,574	(16,252)	(-60.6%)
2022年	8,316	-2,258	-21.4%
2032年	6,322	-4,252	-40.2%

上諏訪市街地の少子高齢化推計値		
	0歳～49歳人口 (子育て期家族)	50歳以上人口 (子育ての終わった家族)
2012年	4,475人 [42%]	6,099人 [58%]
2022年	3,240人 [39%]	5,076人 [61%]
2032年	2,193人 [35%]	4,129人 [65%]

◆ 人口激減の進行 ⇒ 上諏訪市街地の地盤沈下

- 上諏訪市街地の45年前の昭和40年の人口は、**26,826人**。現在はその40%の人口規模。
- 現状のままでは、20年後に諏訪圏域で**18.7%**の減少、諏訪市は**21.0%**の減少、上諏訪市街地は**40.2%**の減少。

◆ 少子高齢化の進行 ⇒ 上諏訪市街地の地盤沈下

- 子育て期の若者は郊外へ。0歳～49歳の子育て期家族人口が少なく現在42%を占めるにすぎないが、現状のまま進むと20年後には35%へとさらに激減、人数的には半減してしまう。全国平均は2011年57%、2030年46%なので、上諏訪市街地の比率は著しく低い。
- 子育ての終わった50歳以上の中高年世代が多く、現在でも65歳以上の高齢化率37.3%という超高齢社会ですが20年後には41.3%となり、50歳以上人口は50歳未満人口の約2倍という超高齢の街となります。

◆ 上諏訪市街地の再生に向けて 人口減少をくい止めることは極めて困難だが

目標 現状の人口維持くらいを目標にできないものか。その為には

- (1) 現状の先細りを打破して、子育て期世代が沢山移住してくること 主
- (2) まちなか暮らしに引かれた中高年世代や高齢者が移住してくること 従

活動 「住みよい暮らしやすい街」として子育て期家族や中高年世帯の移住をはかる

- (1) 上諏訪市街地の住みよさの確認と地域に向けての発信、継続的なPR
 - 子育て期家族にとっての住みやすさ、暮らしやすさの確認
 - 中高年世代にとっての住みやすさ、暮らしやすさの確認
- (2) 土地や住宅利用の流動性を高めて移住しやすい環境整備をはかる
 - 老朽空き家の整理 宅地化、駐車場化
 - 不動産情報の集約と提供
 - 中古住宅の再利用の可能性の検討
 - 高層マンションについての検討
- (3) 子育て期家族や中高年世代にとっての、住みやすさや暮らしやすさの更なる整備

組織 住民的な推進機関としての「街なか暮らし懇話会(仮称)」の活動

調査や検討 ⇒ アイディア・提言 ⇒ 推進活動

関心のある多世代の住民を中心に

更に、建築関係業者、不動産業者、商工業サービス業者、etc

以上

1 超高齢化した「上諏訪市街地の街づくり」への提言

16.3.29 (3.1) 矢島義恭

▽「**中心市街地の活性化**」は、課題の違いに留意して「**上諏訪市街地の街づくり**」と「**上諏訪市街地商店街の再生(活性化)**」に分けて両面から検討することが望ましい

(1)「**上諏訪市街地の街づくり**」は、地域に暮らす生活者にとって「**住みよい街づくり**」が主たる課題

(2)「**上諏訪市街地商店街の再生(活性化)**」の主たる担い手や利害は、市街地の商業従事者であり、その経済活動のあり方と環境づくりが主たる課題

➢ 両者は対立するものではなく、**連携して推進**してこそ共に課題を達成できる

▽「**上諏訪市街地**」は**超高齢化した** [参照「上諏訪市街地の高齢化と街づくり ～データ編～」]

➢ 人口の減少傾向が著しく、現状のままだとこれからも一層減少すると推計される

➢ 50歳以上の高年者が55%以上を占める高年齢社会になった

➢ 65歳以上の「高齢者」が33%と、3人に1人を占める超高齢社会である

➢ 高齢者の半数以上が、独居老人や高齢者夫婦など高齢者だけの世帯で暮らしている

➢ 晩婚化、晩産化、男女の未婚率の上昇により、少子化が進行している

➢ 市街地商店街の低迷と、地価の下落傾向(周辺住宅地価格との格差が縮小)

◆「**高齢者が安心して心豊かにいきいきと暮らせる街づくり**」を提言します

『誰もが住みよい街づくりを視野におきながら』

➢ **高齢者が安心して心豊かに暮らせる街(まち)づくり**

地域の生活者の視点からの「地域づくり」「地域計画」をめざす

➢ **高齢者もその担い手として、いきいき暮らせる街づくり**

高齢者は支援を必要とする弱者であるだけでなく、**環境・福祉・教育などの課題をもつ街づくりの主体的担い手**である

➢ **地域の変化するニーズにマッチした、商業やサービス業の新たな起業や更新**

高齢者の多様なニーズに応えられる「商店街の再生」が求められる

➢ **高齢者に住みよい街は、誰にも住みよい街、すべての住民が暮らしやすい街**

地域の特性を活かすことは、誰にも住みやすい街づくりと共存できる

◆**高齢者が上諏訪市街地に住むことのメリットの検討と街づくり**

➢ 住みなれたわが家や地域で、長年の顔見知りと共に暮らせること

➢ 豊かな自然に包まれ、インフラの集積した都市環境と伝統的な街なみのなかで生活できること

➢ 歯科医・整形外科医(整体・鍼灸師)・薬局・医院や病院などの医療機関が身近にあること

➢ 歩いて出かければ、暮らしに必要な用事がたせること

◇ 各種の商店やサービス業者が沢山あって、必要なものが近くでまかなえる

◇ 銀行、信用組合、郵便局、農協などの金融機関

◇ 足が不自由になっても、老人車を押して出かけ用事をすませることができる

➢ 上諏訪駅に近く、電車やタクシー・バスなどの公共交通機関を便利に利用できる

➢ ふれあいや余暇を楽しむ機会や施設が身近にあること

◇ 街あるきのなかで、知人との出会いや立ち話がある

◇ 湖畔公園などの公園や並木、温泉施設、図書館、老人・文化・福祉センターなどの公共施設が豊富

◇ 喫茶店、飲食料理店、公衆浴場、遊技場、映画館などの娯楽施設も多い

➢ パートやボランティアなど、多様な社会参加の機会を見つけやすい

* **高齢化のすすんだ市街地の『街づくり』は、これらのメリットをより豊かにすることにある**